

賢く 優しく 遅しく



志木三小だより

学校運営協議会スローガン「ともに愛そう わがまち わが学校」

志木市立志木第三小学校

令和4年12月23日

志木市柏町3丁目2番1号

TEL 048-471-1062

志木三小の伝統～上級生から下級生へ～

校長 関根 久美子

地域、保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、無事に2学期の教育活動を終えることができます。心より感謝申し上げます。2学期は、コロナ禍であっても、児童にとって必要な教育活動は最大限、実施してまいりました。PTAの方々のご協力のもと持久走大会を実施し、児童が懸命に努力する姿を見ることができました。おやじの会の方の企画により、イベントを行い児童の笑顔に触れることができました。文化庁の文化芸術による子供の育成事業や、お茶会、体力向上授業、社会科見学など対面型、参集型の授業、体験も行うことができ、児童の学びが深まりました。集団生活における感染症対策について、各ご家庭で十分な配慮をいただきました。少しでも体調が悪い、家族に体調不良の方がいるなどの場合、出席を控えていただいたので、感染が広まるリスクを極力抑えることができました。各ご家庭でこのような対応を徹底していただけると、少しずつ教育活動の幅を広げ、実施の方法についての可能性も広がってくると思います。今後とも、ご協力いただき児童の心に残る教育活動が実施できると良いと思います。

さて、12月になっても体育館の脇のイチョウの木はたくさんの葉をつけていました。先日、6年の社会科見学で訪れた都内のイチョウの木も多くの葉をつけ、黄色に色づいていたところを見ると、今年のイチョウは葉を落とすのが遅いのでしょうか。私が、朝、イチョウの葉を掃いて片づけていると、6年生の児童が「手伝います」と言って、ランドセルと置くと竹ぼうきをもってきて手伝ってくれました。後から登校してきた児童が「何してるの」「手伝っているの」「じゃあ、俺もやる」何人かの児童が手伝ってくれました。その後、何日間か、朝、昼休み、児童の顔触れはその時によって違いますが（ずっと参加してくれた児童もいます）落ち葉掃きは続きました。

サッカーワールドカップで、日本のサポーターが試合の後、スタンドのごみを拾っている光景がSNSでも紹介されました。「素晴らしい行為だ」という意見もあれば「偽善だ」「清掃することを生業にしている人の仕事をとるものだ」など、いろいろな意見がありました。私はたとえ行為の動機づけが「いい格好をしたい」「認められたい」などだとしても、「正しい行い」には意味があると思います。「正しい行い」だとわかっているけど「できない」ことがよくあるからです。

児童は、「お手伝い」が好きです。小さい子供ほど、「お母さんに褒められたい」「先生に認められたい」などと思っいろいろなお手伝いをします。この外発的動機づけは大人にも当てはまります。「お母さんが困っているから助けたい」「こうすることが正しいことだ」という内発的動機づけも児童はもっています。大人がこの内発的動機づけを認め、評価することができると、児童の自己肯定感が高まりますし、自己有用感を持ち、正しい判断基準を持つことにつながります。

6年生の児童が、落ち葉掃きを手伝ってくれている様子を見ていた1、2年生が「僕もやる」と手で落ち葉を袋に入れてくれました。「善い行い」は人から人へつながっていきます。小さな子は、年長者の行いを「模範」「モデル」として成長します。

志木三小の6年生の「生活の仕方」「行い」が下級生の「見本」「模範」になり受け継がれ、「伝統」になります。6年生の皆さん、志木三小の「良き伝統」を作ってください。

最後になりましたが、皆様、体調に留意され、良いお年をお迎えください。